

## やった！

### アンナ・ステンランド

今、日本での合気道の最後の稽古を終えたところですが、体は痛みを全く感じません！

ここに来る前の私の最大の心配事は私の体がつまつかどうか、ということでした。「最初の十日間はきつい」と私より先に住み込み修行を経験した人達から聞かされましたが、それは間違いでした。私とイエンニは筋肉痛などの色々な痛みにはほとんど毎日悩まされ、そんな日々が何週間も続きました。

何はともあれ、人間の体とは不思議なものです。こんなにも簡単に、小平の重い畳で初めて受身を取った時の痛みを忘れることが出来るとは…。そんな畳も今では柔らかくなったような感じがします。



私たちが住み込み修行を開始したとき、幸いなことに笠原さんとマシューの二人の内弟子の世話を受けることが出来ました。二人ともありがとう！彼らは辛抱強く私たちに内弟子の仕事を教えてくれました。

ハタキがけから箒がけ、切手貼りなどなど、色々教わりました。実際のところ私は外の通りの竹箒での掃除を楽しむようになりました。もうそれも出来なくなるので寂しい限りです。

しかし、またいつか戻ってこなければいけないでしょう。なぜならいまだに道場のどの窓をどちら側に開ければいいのかよく分かっていないからです。まだまだ修行が足りません。

一番の美しい思い出は、小平道場での四月のある早朝のことです。新鮮な空気と小鳥のさえずりが開いた窓から入り込み、朝日がまっさらなキャンパスの畳の上を照らす…。私たちにとって父親のような存在の小林先生が皆の前でゆっくりと準備体操をリードしている…。静かに、そしてゆっくりと、美しいピンクの桜の花びらが風に運ばれキャンパスの畳の上に落ちる…。それはただただ完璧でロマンチックでした。

稽古はまさに最高でした。以前まで理解していたと思っていた事を突然再び理解する、というような数々の「革新的」な一瞬を味わうことができました。実際、このようなところが合気道を素晴らしいものとしているところだと思います。誰も絶対に満足な状態にはなれないので、いつも新しい発見があります。合気道というただひとつの事だけを行うだけでいいという贅沢は、私に六週間の平和と安息をもたらしました。

一つだけストレスを感じたのは、五十嵐先生を訪問した時でした。五十嵐先生はボールを使って腕を曲げる動きを指導されていました。私にはとても難しく、

さも自分が何も知らない初心者のような感じがし、惨めな思いでした。しかし、後になってそのような「無知である」という感覚はいいものだと思えるようになりました。なぜならそのような感覚は私自身の心を、新しい知識を受け入れやすい状態にしてくれるからです。

小林先生という、私の合気道の「源泉」のすぐ近くで過ごした六週間は、私に多くの理解と活力を与えてくれました。小林先生が新しい会員たちや、古い会員たち、そして道場に関する全てを大切に  
する姿勢に、また、その姿勢が若い世代に良く受け継がれていることに、私は感銘を受けました。私は、この暖かく、友好的で、開放的な雰囲気  
の小林道場に属していることをとても幸せに感じます。



小林道場の皆さん、畳の上でもそれ以外の場所でも大変お世話になりました。ありがとうございました！